

実需者提携米取組み生産者の皆様へ

## 『実需者提携米通信』No.2号

### 実需者提携米栽培管理のポイント（6月）

稲の生育も移植時期により初期生育にバラつきがみられたものの順調に進み、4月25日移植の「ちほみのり」「萌えみのり」「とよめき」は、最高分けつ期と幼穂形成期を6月にむかえる予定です。

今回は、近年の気象傾向である7月下旬以降の異常高温と台風に備え、「多収」と共に「暑さに負けない稲づくり」に向けた栽培管理のポイントを掲載します。

特に「中干し」作業は、収穫時の作業性を高める効果もあるため、この時期にしっかり行いましょう。

#### 1. 中干しの実施

「中干し」は、過剰分けつを避け、適正な茎数を確保するための重要な管理です。地中深く根を張らせる効果があるため、登熟期の高温障害の予防と倒伏防止に有効です。それぞれの品種の中干し開始目標茎数を参考に、田面に軽くヒビが入る程度に中干しを行いましょう。

品 種	中干し開始目標茎数		幼穂形成期 ※
	1株当たりの茎数	m <sup>2</sup> 当たりの茎数	
ちほみのり	30本/株（50株/坪植え）	450本/m <sup>2</sup>	6月13日頃
萌えみのり	30本/株（50株/坪植え）	450本/m <sup>2</sup>	6月20日頃
とよめき	25本/株（50株/坪植え）	370本/m <sup>2</sup>	6月20日頃
あきだわら	20本/株（60株/坪植え）	350本/m <sup>2</sup>	7月16日頃

※幼穂形成期は4月25日植えの場合の目安です。幼穂長をしっかり確認しましょう。

#### 2. 追肥の施用

幼穂形成期の追肥は、分化した枝梗や穎花の退化を防ぎ、籾数の確保に有効です。収量・品質の確保を目的に、幼穂形成期（幼穂長10mm）に葉色の低下が見受けられる場合は、追肥を行いましょう。

**★基本技術の励行が、「収量の確保」と「暑さに負けない稲づくり」のポイントです。中干しの実施とともに幼穂形成期の葉色を確認し、葉色が低下している場合は、追肥を行いましょう！**

以上